



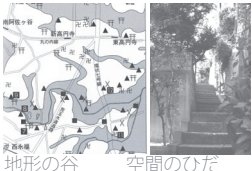
建築の『自然』概念を、「自然」と「自然性」という二種類の概念に分け、それらを統合したものを新たに『自然』概念として構築し、それぞれを視覚化することで、『自然』を失った現代の建築に『自然』を取込むことを試みる。

- 『自然』を建築に取込む手法
- 1 東京の特性を把握する
 - 2 敷地の特性を把握する
 - 3 それぞれの特性を結びつける特性を汲み取る
 - 4 その特性を用いて『自然』を視覚化する

東京の特性



水の都



敷地の特性



汲み取る特性



敷地の特性より、残余の地である本敷地は隣地がなく多方面から視線が集まる。特に南の神田川からの視線、相生坂からの視線が多い。そのため建物と建物のすきまが道路と河川を結ぶ重要な場所となっている。しかし、現状ではすきまがあまりにも狭いためごみがたまるなど、敷地の醜い場所となっている。この現状の負の特性を用いて計画を進める。

敷地：御茶ノ水
(千代田区外神田2丁目)
敷地面積：約2,500㎡
建物種類：短期滞在型宿泊施設
(学生マンション)
宿泊施設：70室
約250人 滞在可
商業施設：23店舗
約1,500㎡
述べ床面積：約7,200㎡

